

新宿区

UD

まちづくり
ニュースレター

Vol.

11

WINTER

第11号
2023.12

新宿住友ビル三角広場

UDスポット しんじゅくすみともびるさんかくひろば

三角形の特徴的なビルと、屋内なのに青空が見える三角広場をご覧になったことはありませんか？昭和四九年に竣工し、今も「三角ビル」という愛称で人々から親しまれている新宿住友ビルは、令和二年六月にリニューアルしました。ビルの足元に広がる三角広場では、イベントの会場や人々の憩いの場として日々賑わいが生まれています。

古くなったビルを壊すのではなく、必要な箇所をリニューアルすることでより多くの人にとって利用しやすい場所となった新宿住友ビル三角広場のユニバーサルデザインについて、一緒に見ていきましょう。

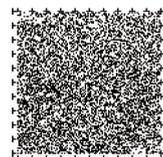
ユニバーサルデザイン

UDとは？

年齢・性別・国籍・個人の能力等にかかわらず、できるだけ多くの人々が利用できるよう生活環境その他の環境をつくり上げていく考え方です。

新宿区には、多くの外国人をはじめ、様々な人々が生活しています。区では、移動しやすく、利用しやすく、わかりやすいまちを目指して、令和2年3月にUDまちづくり条例を制定しました。

このニュースレターでは、新宿区の取組や、UDスポットの紹介、利用者の声などをお伝えしていきます。



Uni-Voice

しんじゅく すみとも さんかく ひろば
新宿住友ビル三角広場
 Shinjuku Sumitomo Building Triangular Plaza

UD探検隊が行く！新宿UDまちづくりスポット

天候に左右されずに
 にぎわいが創出される
 広々とした空間

Good
 UD
 ポイント

様々なにぎわいが生まれる公開空地*

普段は、イベント会場等として利用され、様々な人が訪れています。また、災害発生時には防災拠点となり、帰宅困難者を受け入れることができます。

写真提供：住友不動産（株）

*都市計画法に基づいて設けられる空地のうち、歩行者が日常自由に通行又は利用できるもの



利用者コメント

電車の広告で見かけて興味を持ち、イベントを目的に訪れました。案内があったため駅からも来やすかったです。天井が高く、青空がよく見えるのが良いですね。
 (20代・男性)



帰宅困難者受入訓練の様子

写真提供：住友不動産（株）

イベントはにぎわいにつながるものを中心に開催

利用者コメント

1年半ほどここに勤めていますが、イベントや通路として利用する人でいつも活気があるように感じます。天井の解放感も気持ちいいです。
 (50代・女性)

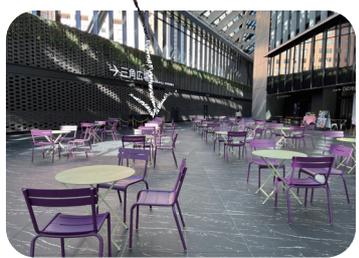
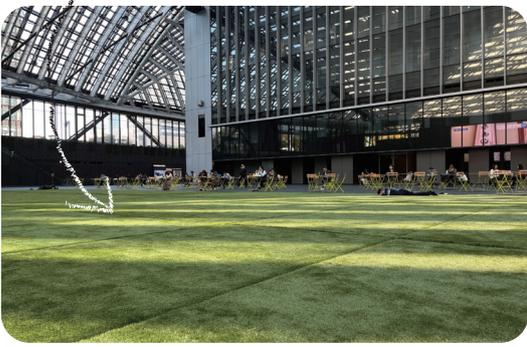


利用者コメント

今日は目的地までの通路として歩いていましたが、食事や展示会にもよく訪れます。駅から直結で、広場に屋根もあるので、雨の日でも傘をささずに濡れないで来ることができて便利だと思います。
 (20代・女性)

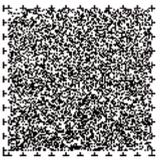


人工芝に寝転んだり、椅子に座ってストリートピアノの演奏を聴くことができる！



季節を感じられる展示

写真提供：住友不動産（株）



Uni-Voice

Good
 UD
 ポイント

人々の憩いの場となる公開空地

イベント会場としての利用が無い日には、誰でも自由に利用できる人工芝やテーブル・椅子が設置され、誰もが思い思いの場所でのんびりとくつろぐことができます。

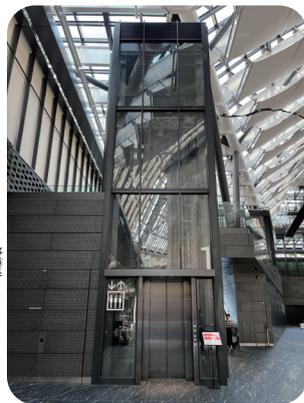


象牙の鍵盤のストリートピアノ

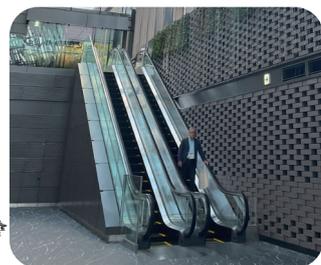
Good
UD
ポイント

広場へのアクセス方法の改善

エレベーターが設置されたことで、広場とは高低差のある一部の道路からのアクセスがスムーズになりました。



乗り口と反対側のドアが開くため、車いすでもバックせずに利用することができる



整備前

写真提供：住友不動産（株）

運営者インタビュー

1974年に竣工した新宿住友ビルは、国内初の200メートル越え高層ビルとして観光名所になり、多くの人々が訪れていましたが、現在では高層ビルが珍しくなくなり、西新宿周辺は観光・にぎわいの場ではなく、オフィス街としてのイメージが強くなっていきました。天候に左右されず、常ににぎわいを生むため、ガラス屋根で覆われた広場を作ろうという案が出たのは、今から20年以上前のことです。当時、公開空地は屋外とする制約があったため思うように計画は進みませんでした。東日本大震災で多くの帰宅困難者が発生したことをきっかけに、**防災拠点として活用するためにも屋根付きの空地をつくるのが認められました。**

広場のデザインについては、広さを確保するために柱をなくすとともに、天井からは青空が見えるよう、トラス構造ではなくビーム（梁）にするという工夫をしています。また、**ビル周辺の土地の高低差による回遊性の悪さを改善するため、広場の1階と2階をつなぐエレベーター・エスカレーターを設置しました。**

「有事の防災、平時のにぎわい」という考え方から生まれたこの広場には、帰宅困難者2850人のための備蓄が3日分準備されており、年に1回防災訓練を実施しています。

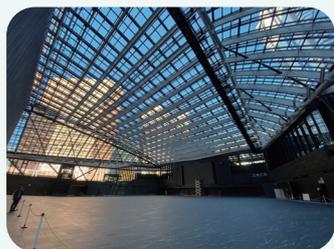
平時はオフィス利用者やイベント参加者で平日・休日ともににぎわいが創出されており、イベント会場としての利用が無い日は、広場に人工芝とテーブル・椅子を設置することで、人々に憩いの場を提供しています。

今回の工事は、古くなったビルを壊すのではなく、必要な箇所をリニューアルすることで、より多くの人にとって利用しやすい場所になるという良い先行事例になったのではないのでしょうか。

私たちは、三角広場をふらっと立ち寄ってもらえる場所にするを目指しています。**まちなぎわいの核として人の流れを生み出すことで、新宿住友ビルと三角広場だけではなく、まち全体のにぎわいにつなげていきたいと思ひます。**



住友不動産株式会社
ビル事業本部
鈴木さん、加世田さん



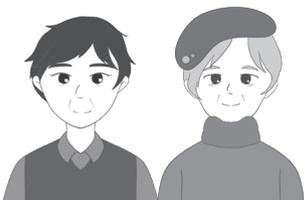
ビームにしたことで
青空が良く見える天井

壊さずに生まれ変わらせる

人々から親しまれているビルの形はそのままに、必要に合わせて設備や広場をリニューアルしました。

利用者コメント

お出かけ前に食事をするために立ち寄りしました。以前から利用していましたが、久しぶりに訪れたら広場が綺麗に生まれ変わっていて驚きました。ピアノの演奏を聴きながらくつろぐことができ心地よいです。
(80代・女性・2人組)

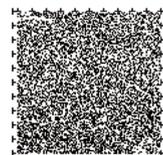


写真提供：住友不動産（株）



写真提供：住友不動産（株）

広場全体に
屋根がかかって
全天候型に！



Uni-Voice



建築物や設備、案内板などのデザインで大切なのは、色使いや見やすさです。何気なく過ごしている街並みもよくみると心地よい色や分かりやすい案内があることに気づかされます。一方で、わかりにくく困惑する空間や建築物も目にします。

今回お伝えしたいのは「色」についてです。視覚障害のある方の中には、全く見ることでできない人（全盲）よりも、見えにくい方や部分的に見えない方（ロービジョン）の方が多く、加齢に伴う視力の低下など、情報の取得の困難さは人それぞれ異なります。

例えば、白い壁に白い手すりや白い便器、白い床であると、ロービジョンの場合には、どこに便器があるのかわからないといったことが起きてしまいます。写真のように壁と手すりの色、床と便器の色にコントラストをつけることで、より見やすく形状もはっきり認識することが可能です。このほかにも、案内板と説明の文字のフォントや色などの組み合わせ一つで、見やすさ、わかりやすさは向上し

「色について」



日本女子大学 家政学部
住居学科 助教
(一級建築士・福祉住環境
コーディネーター1級)

植田瑞昌さん

ます。

さらに、色の見え方が多くの人と少し異なる（色弱）方もいらっしゃいます。赤と緑が同じような色に見えるなど、色だけで何かの案内をしようとするとうまくいかない場合があります。できるだけ多くの人が見分けられることができるような配色や色だけに頼らない方法（異なる形や線との組み合わせなど）を用いることが大切です。みなさんも、まちのなかの「色」について、見やすい・わかりやすい「もの」や「こと」を探してみませんか？

床や壁と物にコントラストがあり、視覚障害のある方でも使いやすいトイレ



撮影筆者：NPO 法人 視覚障がい者支援協会
就労継続支援 B 型事業所 ひかりの森

(今回のコラムは UD に詳しい専門家の方からご寄稿いただきました。)

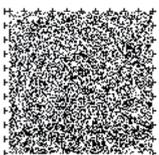
新宿区ユニバーサルデザインまちづくり条例 施行規則を改正しました！

東京都福祉のまちづくり条例施行規則の改正に伴い、新宿区ユニバーサルデザインまちづくり条例施行規則を改正し、建築物や道路、公共交通施設等の整備基準を変更しました（令和5年10月1日施行）。

改正内容について、詳しくは、2次元バーコードより新宿区 HP をご確認ください。



新宿区からのお知らせ



Uni-Voice

取材・編集：(株) 菫まちづくり研究所

新宿区ユニバーサルデザインまちづくりニュースレター 第11号（令和5年12月発行）

お問い合わせ先：新宿区景観・まちづくり課